

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	金砂郷町立金郷小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	28	13	21	24	25	17	3	131	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶ楽しさを体験させ、学習意欲を高めるための指導の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

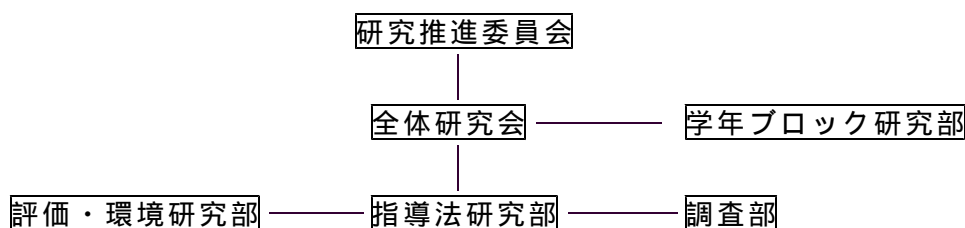
1年, 2年, 3年, 4年, 5年, 6年・算数
 (児童の理解度の差が出やすい教科であるため)
 4年・理科
 (実験や観察のある教科なので, 理科専門の教師が指導に加わったほうがよいので)

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>学ぶ楽しさを体験させ、学習意欲を高めるための指導の工夫</p> <p>研究の見通し</p> <p>チームティーチングや習熟度別少人数指導を取り入れ指導方法を工夫改善することによって、個々の能力を引き出し伸ばすことができるようにする。</p> <p>児童の実態に応じた教材を開発し効果的に活用することによって、児童の学習意欲を喚起でき自ら学ぶ姿勢が育つようにする。</p> <p>評価を生かし個々に応じた指導をすることによって、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が図れるようにする。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>指導体制 (T・T, 習熟度別少人数指導)</p> <p>指導方法の工夫・改善</p> <p>学習過程の工夫</p> <p>学習形態の工夫</p> <p>評価を生かす指導の工夫 (事前テストの活用, 評価規準, 補助簿)</p> <p>教材の工夫・開発</p> <p>教材や教具の整備</p> <p>学習環境の整備</p> <p>家庭との連携</p> <p>小学校と中学校の連携 (相互授業参観, 中学校体験学習)</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>学ぶ楽しさを体験させ，学習意欲を高めるための指導の工夫</p> <p>研究の見通し</p> <p> チームティーチングや習熟度別少人数指導を年間計画・単元計画に位置づけることによって，充実した学習指導ができるようにする。</p> <p> 児童の実態に応じた教材を工夫開発し，体験的な学習や補足的・発展的な学習に生かすことによって，児童の学習意欲を高めるとともに自ら学ぶ姿勢が定着できるようにする。</p> <p> 教師や児童の評価を指導に生かしたり，学習支援カルテを活用したりすることによって，個々に応じた指導を充実させ，基礎的・基本的な学習内容の確実な習得が図れるようにする。</p> <p>研究内容・方法</p> <p> 指導体制（T・T，習熟度別少人数指導）の確立</p> <p> 指導方法の工夫・改善</p> <p> 学習過程の工夫</p> <p> 学習形態の工夫</p> <p> 評価を生かす指導の工夫（事前テストの活用，評価規準，補助簿，個人カルテ）</p> <p> 教材の工夫・開発，教材や教具の整備</p> <p> コミュニケーション能力の育成</p> <p> 学習環境の充実</p> <p> 家庭との連携（基本的習慣づくり，家庭への啓発活動）</p> <p> 小学校と中学校の連携（相互授業参観と研究協議，中学校体験学習）</p> <p>11 学力や学習への意識把握</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



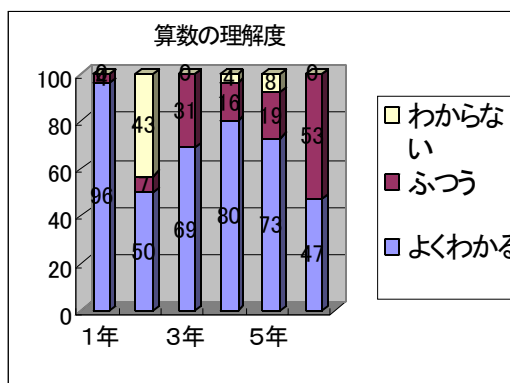
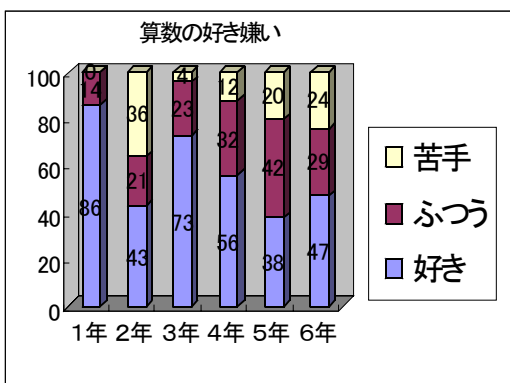
- 〔研究推進委員会〕----- 研究推進の中心となる。
- 〔全体研究会〕 ----- 研究に関わることについて全体の共通理解を図る。
- 〔学年ブロック研究部〕-- 指導案作成や教材の開発に当たる。
- 〔評価・環境研究部〕---- 評価の研究，学習環境の整備に当たる。
- 〔指導法研究部〕 ----- 指導方法の研究，授業研究を進める。
- 〔調査部〕 ----- 実態調査を実施する。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

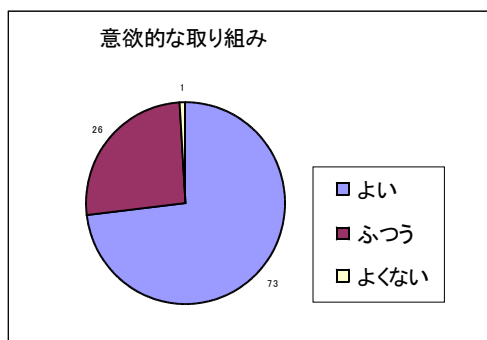
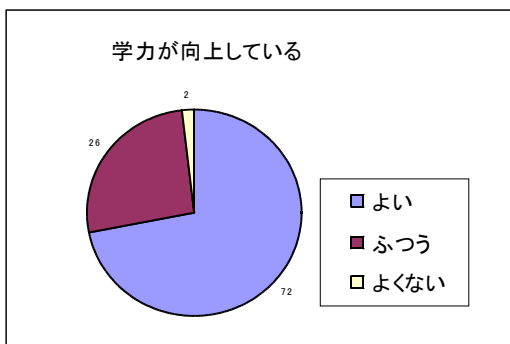
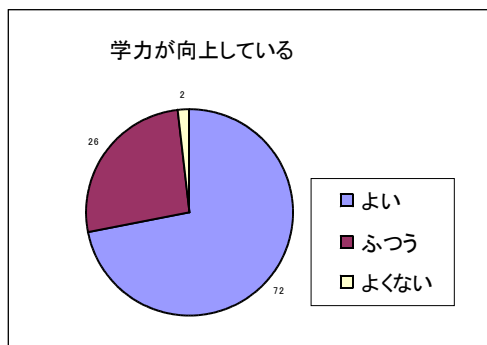
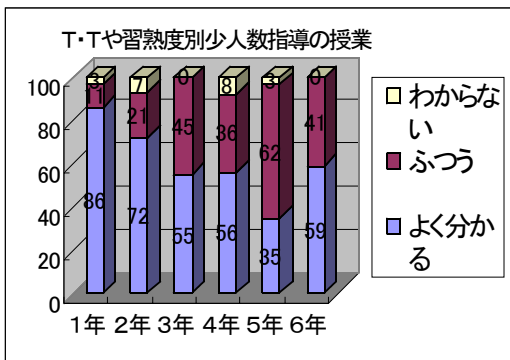
1. 研究成果

- ・ T・Tの授業では，T1，T2の役割分担を明確にしたので，児童への指導や支援がよりよく行えるようになった。一人一人に関わる機会が多くなり，より多面的な児童の理解や個々にあった指導や支援ができ，学習内容の確実な定着に効果があった。
- ・ 習熟度別少人数指導では，学習集団が小さいこともあり，一斉授業のときより一人一人に指導の目が届きやすくなり，きめ細かな指導ができるようになった。児童の発表や思考力の面で向上が見られた。
- ・ 毎時間，授業の最後に振り返りの場を設け，自己評価させた。楽しかった，分かったという児童が増え，意欲や理解の上で向上が見られるようになった。
- ・ 作業的・体験的な活動を積極的に取り入れたので，児童の興味・関心を高めることができるとともに，児童が主体となった授業が展開できるようになった。
- ・ 互いに教え合ったり，学び合ったりする場を設けたので，協力性が高まった。
- ・ 指導案の作成や教材の作成を共同で行ったので，指導面での研修が深められた。

【児童の意識調査 平成15年9月～10月】



【保護者への意識調査平成15年12月】



2. 今後の課題

- ・ 研究推進に当たっては、推進委員会 全体会 各研究部の流れが効率的に進めるようにしていきたい。
- ・ ティームティーチングや習熟度別少人数指導の指導計画を整えたい。
- ・ 個々に対する学習支援カルテを作成し、児童の実態を的確に把握し、指導に役立てるようにしていきたい。
- ・ 人前での説明や話し合いの活動に自信が持てるように、コミュニケーション能力を高めるようにしていきたい。
- ・ 学習習慣のもとになる基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせることで、学力の向上につなげていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

県「学力診断のためのテスト」の実施と前年度結果との比較分析（4月）
・ 指導方法の改善
学習到達度テストの実施と前年度結果との比較分析（2月）
・ 個に応じた指導方法の工夫
単元のテスト（単元の学習終了時）
・ 学習内容の定着

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業研究会
期日：平成15年11月27日（水）
場所：本校
対象：本校職員及び県内小・中学校職員
目的：研究内容及び研究の実践を他校や他の地域に紹介する。
研究紀要を作成し、研究の成果を普及する。



次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|-----------|----------------------|------------|------|------|
| 【新規校・継続校】 | レ 15年からの新規校 | 14年からの新規校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下 | レ 7～12学級 | | |
| | 13～18学級 | 19～24学級 | | |
| | 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | レ 少人数指導 | レ T・Tによる指導 | | |
| | レ 一部教科担任制 | その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | レ 算数 | レ 理科 |
| | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 |
| | 体育 | その他 | | |
| | 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | レ 有 | 無 | |